

# 2002 はーとふるメッセージ

## わたしと人権

特選作品紹介  
第 3 回

学年は、いずれも応募時のものです。

### 作文・中学生の部



中村友紀さん  
(彦根中学校2年)

### バリアフリーについて思うこと

私のおばあちゃんは、足腰が弱って自分の足で思うように歩けません。つい最近までは自転車にも乗れ、買い物にも出かけていたのに、今ではもうだれかの介護がないと外へ出かけられなくなりました。家の中では歩行器を使って歩いています。それだけでも、よく「足が痛い。」と言っています。そんなおばあ



ちゃんをいつも身近に見ている私には、おばあちゃんの大変さやつらさが痛いほどよく伝わってきます。見ていて何だかかわいそうに感じています。

でもそんな思いをしているのは、私のおばあちゃんだけではありません。日常生活において困っている、お年寄りや、体の不自由な人はたくさんいます。

最近、テレビのニュースや新聞などで『バリアフリー』という言葉を知りました。障害のある人たちが利用する物をできるだけ利用しやすいように作らな

ければならないことで、最近では『バリアフリー化』が進んできたと感じました。私の家もほとんど段差がありません。階段もゆつたりとしていて手すりもついています。廊下や階段には、近づく自動的につく電気もありません。しかし、それは家の中だけで、外に出ると玄関から門までは階段などの段差があり、植木鉢などいろいろな物も置いてあります。つまり、家の外に一步踏み出すと障害物だらけということになりました。それに、公共施設でもまだまだ完璧なバリアフリーが施されているわけではありません。例えば、病院です。スロープがあっても急で、とても一人ではあがれなかったり、トイレが和式で手すりもついていかなかったりする所がまだまだ多いです。こんなことを考えると、お年寄りや体の不自由な人たちは、一人で外にも出かけられず、不自由な暮らしをす

るしかなく、それぞれの人生を楽しむことができないのではなにかと思います。

私は今、中学2年で元気だから、お年寄りや体の不自由な人の気持ちを理解するのは少し難しいことです。でもだれだっていつかは年をとるし、突然、事故や病気などで体が不自由になることだってあるかもしれません。つまり、お年寄りや体の不自由な人というのは、特別な人ではなく、私たちと同じ人間なのです。だから、一部の人のみに便利な世の中ではないかなと思います。このことは、私たちみんなが考えなくてはならないと思います。それが分かった時にやっと、本当のバリアフリー化に一步近づけるのです。すべての人が、幸せに楽しく暮らしていくためには、もっとバ

### ポスター・小学生の部



中川真那さん  
(若葉小学校3年)



### 選評

あなたの文章を読んでいると、しだいに目頭が熱くなるのを感じます。なぜだろうと考えてみました。それは、すべての人、一人ひとりを、生きている姿そのままに、足元から漏らさず尊重しようとする深い深い人間愛が溢れているからです。私はあなたの思いを、一人でも多くの方々に伝えたい思いでいっぱいです。

アフリー化を進めなければいけないし、それは急がなければならないことだと思います。そのためには、建物だけでなく、みんなの心がバリアフリー化されることが、何よりも大切だと思います。私もいつしよになつて考えていきたいです。